

アドベント・待降節第2主日礼拝

2022年12月4日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 姜 徑米

前 奏

招 詞 詩 編 34編10, 11節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 130編1～8節 (旧973)

マタイによる福音書1章20～21節(新1)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 2編112 (1, 2)

説 教 「贖罪の名」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 284 (1)

聖 餐 式

献 金

頌 栄 540

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

12月の祈り

歴史を通して今も語り掛けられる主なる神が、時代に流されず、揺るぎない救いとして、ひとり子を与えられたことに心を注ぐことができるように。

主の御手が痛みを負っている人々に与えられ、慰めといたわりが与えられるように。

子どもたちが守られ祝されて霊と肉体共に健やかな成長が与えられるように。

クリスマスに向けて落ち着いて心静かに祈る時が与えられるように。

今日の祈り

アドベント第2主日を迎え、一層主の臨在の恵みに導かれてあることを知ることができるように。

天にある主の御心である平和が地上にもたらされ、戦火が止み、傷ついた心と体が慰められ癒されるように。

愛する者を主の御許に委ねた人々に慰めがあるように。

「贖罪の名」 高橋和人

詩編 130:1～8

詩編130編は6, 32, 51, 102, 143と共に「七つの悔い改めの詩編と呼ばれ、アドベントに読まれる詩編だ。悔い改めは神との近接によってもたらされる。主が近いことによらなければ、悔い改めには耐えられない。

「深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。」

(1). 主は神の名、呼びかけることのできるお方だ。われらはそのように向き合われる神を待望している。イスラエルは「神の民」、神を見上げる縦の軸を持っているものたちだ。だから深い淵にいても見上げることができる。

世界は多くのものを受け入れ、多様化し、平面は広がり続ける。しかし、人ひとりの深みには縦の軸がなければならない。

縦の軸がなければ、深みにいることさえ分からない。「深い淵」は死が力を振るっているところ。死は罪によって、罪は死によって力を振るう。自分の腹を神とし神なしに生きる、その罪は死によって現実となる。死は人を空しさの闇に落とす。

主は声を聞き取る方だ。わたしの声に耳を傾けるという。深みにあって、空しさに支配されている者が声を上げることができるのは、それが聞かれることに賭けることができるからだ。

その声は、赦しを求める。人は誰でも最後に求めるのは赦して欲しいということだ。しかし何から赦されるべきかを分かっていない。必要なのはこの生涯が赦されることだ。

神が罪を指摘するなら、人は耐えられない。罪は人の魂を押し殺す。赦しが与えられるなら、自分の罪を認めることができる。罪は的外れの意味。真っすぐに見ずに歪んで生きてきた。何かのせいにしてきたのだ。

赦しがあるからこそ、人は神を畏れる。本当に赦されるなら、その罪の深さを知り認めなければならない。その罪に神が手を伸ばし赦されるゆえに畏れることになる。

この詩は待望する。待望することを知っている。それは切実だ。そこには言葉がある。言葉の真実は約束にある。主は契約の神、「わたしの住まいは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの神となる。」(エゼ37:27)と。

贖いは罪の代償を払って買い取ること。そこまでして、神は人と共に居られることを実現しようとする。それがクリスマスのもたらすものだ。